【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和6年5月8日(2024.5.8)

【公開番号】特開2024-45746(P2024-45746A)
【公開日】令和6年4月2日(2024.4.2)
【年通号数】公開公報(特許)2024-060
【出願番号】特願2024-25644(P2024-25644)
【国際特許分類】
Ｈ０５Ｂ　3/06(2006.01)
Ｈ０５Ｂ　3/48(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０５Ｂ　3/06　　Ａ
Ｈ０５Ｂ　3/48

【手続補正書】
【提出日】令和6年4月25日(2024.4.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
長手方向を有する筒状のセラミック体と、該セラミック体の内部に周方向に沿って設けられた折返し部を有する発熱抵抗体と、一端が前記発熱抵抗体と電気的に接続されているとともに他端が前記セラミック体の後端側の側面に引き出された引出部とを有するヒータ本体と、
前記引出部よりも先端側に位置し、前記ヒータ本体の側面に沿って延びる筒状部と、該筒状部に連続し、前記引出部に向かって前記ヒータ本体の径方向に広がるフランジ部とを有する金属製の支持部材と、
前記ヒータ本体の前記側面と前記支持部材の前記筒状部とを接合するガラスからなる接合材とを備え、
前記接合材は、前記筒状部の前記先端側に位置する先端部から前記フランジ部と連続する後端部にわたり、前記ヒータ本体との間に位置することを特徴とするヒータ。
【請求項２】
前記筒状部の前記ヒータ本体の長さ方向の幅は、前記ヒータ本体の径方向の幅よりも大きいことを特徴とする請求項１に記載のヒータ。
【請求項３】
前記筒状部は、前記ヒータ本体の側面に平行であることを特徴とする請求項１または請求項２に記載のヒータ。
【請求項４】
前記支持部材は、前記先端部に接続され、前記ヒータ本体の径方向に広がる拡径部を有することを特徴とする請求項１乃至請求項３のうちのいずれか１つに記載のヒータ。
【請求項５】
前記接合材は、前記筒状部の前記先端部よりも突出する第１突出部および前記後端部よりも突出する第２突出部を有することを特徴とする請求項１乃至請求項４のうちのいずれか１つに記載のヒータ。
【請求項６】
前記支持部材は、前記先端部に接続され、前記ヒータ本体の径方向に広がる拡径部を有

し、
前記接合材は、前記第１突出部を含み、前記先端部から前記拡径部の一部までを覆っていることを特徴とする請求項５に記載のヒータ。
【請求項７】
前記セラミック体は、筒状の芯材と該芯材の側面を覆うように設けられた表層部とを有し、
前記筒状部と前記表層部との間に位置する前記接合材の前記ヒータ本体の径方向の厚みは、前記筒状部の長手方向に沿って見たときに、均一であることを特徴とする請求項１乃至請求項６のうちのいずれか１つに記載のヒータ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本開示のヒータは、ヒータ本体と、金属製の支持部材と、ガラスからなる接合材とを備える。ヒータ本体は、長手方向を有する筒状のセラミック体と、セラミック体の内部に周方向に沿って設けられた折返し部を有する発熱抵抗体と、一端が発熱抵抗体と電気的に接続されているとともに他端がセラミック体の後端側の側面に引き出された引出部とを有する。支持部材は、引出部よりも先端側に位置し、ヒータ本体の側面に沿って延びる筒状部と、筒状部に連続し、前記引出部に向かって前記ヒータ本体の径方向に広がるフランジ部とを有する。接合材は、ヒータ本体の側面と支持部材の筒状部とを接合する。接合材は、筒状部の先端側に位置する先端部からフランジ部と連続する後端部にわたり、ヒータ本体との間に位置する。